

わい性台及び半わい性台リンゴ樹の 生育、収量、品質特性

研究のねらい

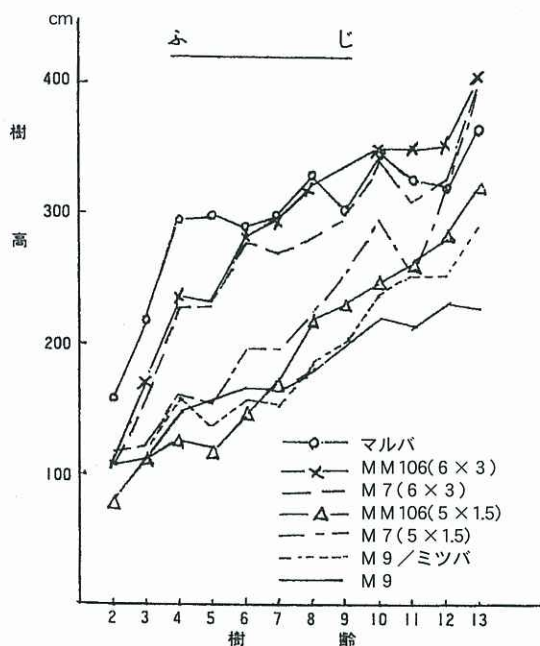
わい性台 (M.9) 及び半わい性台 (M.7、MM.106) 利用樹の生産力、品質を比較検討し、わい化栽培普及の参考とする。

研究の成果

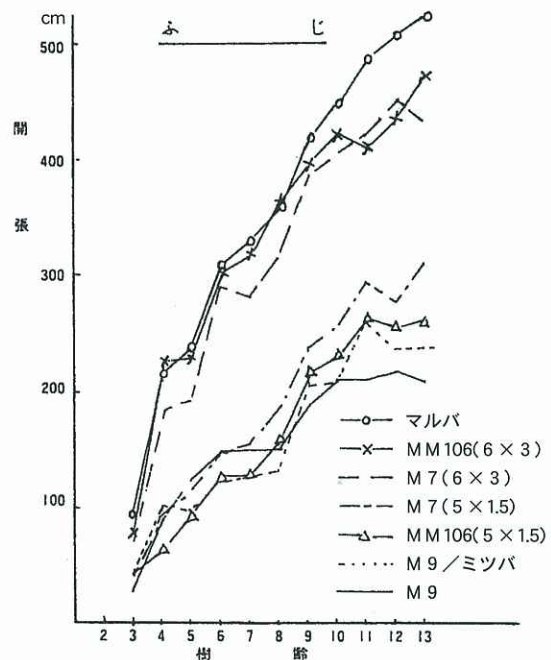
1968年 (昭和43年)、M.9、M.9ノミツバカイドウ、M.7、MM.106、マルバカイドウの各台木に‘ふじ’‘スターキングデリシャス’‘陸奥’をそれぞれのせた1年生苗木を栽植した。その後、13年目まで樹の生育、収量、果実品質をみた。

1. わい性台であるM.9は最もわい化し、早期結実性を示した。樹冠単位面積当たりの収量は概して高く、果実品質も良好であった。
2. M.9ノミツバカイドウはM.9に次いでわい化し、10a当たり収量は高く、果実品質も良好であった。
3. 半わい性台であるM.7、MM.106の高密植では、わい性台に比べて樹はやや大きく、低密植ではマルバカイドウよりやや小さかった。樹冠単位面積当たりの収量は高密植では概して高かったが、低密植では品種によって異なり、‘ふじ’はマルバカイドウより低く、‘スターキングデリシャス’、‘陸奥’は高かった。

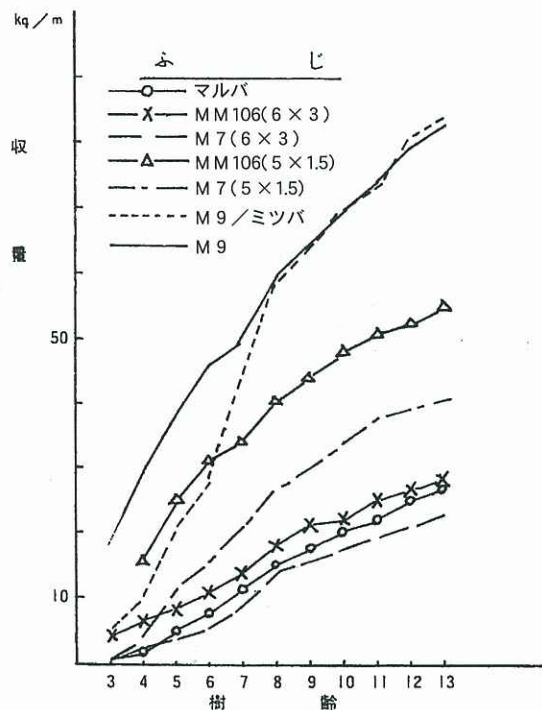
主要な試験データ



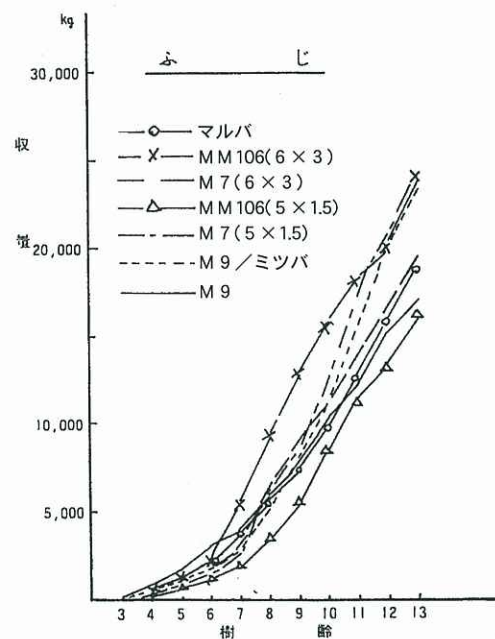
第1図 樹高(ふじ)



第2図 樹幅(ふじ)



第3図 樹冠容積当たり
累積収量 (ふじ)



第4図 10a 当たり
累積収量 (ふじ)

第1表 ‘ふじ’ 収穫果の果実品質(樹齢4年生から13年生までの平均)

台木 (栽植距離)	「秀・優」割合	1果重	糖度	硬度	酸度
M. 9 (5m×1.5m)	89.3(%)	280.1(g)	14.3(%)	14.9(1bs)	0.411(g)
M. 9 / ミツバ (5m×1.5m)	84.1	286.9	14.1	15.4	0.416
M. 7 (5m×1.5m)	81.6	272.8	14.0	15.3	0.421
MM. 106 (5m×1.5m)	87.7	275.8	14.1	15.8	0.440
M. 7 (6m×3m)	82.3	277.7	14.2	15.6	0.412
MM. 106 (6m×3m)	82.4	297.0	14.1	15.4	0.418
マルハバ (8m×4m)	80.3	296.2	13.8	15.0	0.419

注) 酸度は滴定酸度で、果汁100ml当たり。

発表資料

小原信実ら (1983). リンゴわい化栽培に関する研究 第2報 高・中密植によるわい性、半わい性台樹の生育、収量、品種比較. 青森りんご試報 20: 53-77.